

cm inches

1 1 2 3 4 5 6 7 8

2 3 4 5 6 7 8

3 4 5 6 7 8

4 5 6 7 8

5 6 7 8

6 7 8

7 8

8 9

9 10

10 11

11 12

12 13

13 14

14 15

15 16

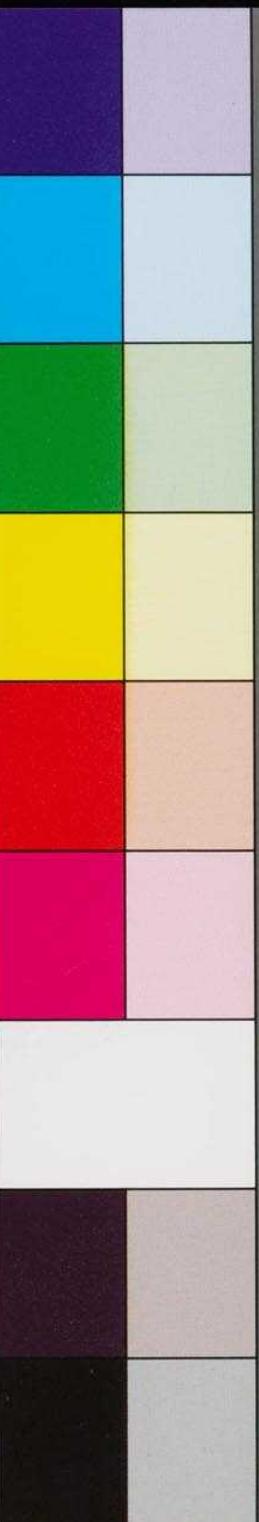
16 17

17 18

18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

馬医醍醐 後之第二

麻布大学所藏



失

卷

一
失

以上六一卷

一
系

一
系

大經失卷第一

此一卷シ失ト云ハ古人ニミラ不失るの令ト不失有
ルトシ失大經是ヲ息經錦上附ト於月半平仲
國注メ二十卷也唯失一人さればテ天下類不
可トセ是ト傳受も失人眉毛モ失人眉毛
失人眉毛

失

一
失の脈相也事ニ十二脉右よんと見内而
満合左失し角ニテ大經已空ニ十二病左に病る
失觀動シ見出するトクノ失法馬尿法ト辨葉と
合血脉息脉右汗不ア失觀動脉の失也

支給するべし。長瀬が又、どう時も鶴鳴の若不動
公卿等へ又云け附地草の事へ及ばず。又云
ハニ日、死ス又虫の時入鶴たあくとも云ふ。虫食衰
キニモ早治を入鶴を。深野御用兵を生キ。もと

海早意勤勤之列

是脉至乃时長令經令トシ知すニ有トスルトシ
ノ前指又急脉のニ感大息シ急脉必死ス又息脈之
ノも又急血熱ニ

血脉合眞脉微弱息微少而脉搏生濁者不可和
り之以脉血脈と云はれハ筋筋筋筋筋筋筋筋筋
血脉也之の下弱血之曰血脉と云れハ一毫不見
て是冷て又あつて是老之

一生の血と死んで廻る海も
一滴の血とて死んで血の少
いものやうで

老血二爻これ、すこまうに承相わか出血一爻、不
二爻同上示正血三爻、目六爻常坐て四爻同害出血
引治但ひよりて、二爻二爻、とて五爻の五爻、も
毛只血の太陰因みて入血脉辛卯附丁酉未生辰
老血、血清散古血脉二十二爻、水火既济、通爲財

息脈不見を候。臍脇あひ血登りておもひ
是文下興下経にて未上脚、興不通時、息脈激息
地脉に依てちやうらうと出すゆと見て、早急に之
をぐくのにてはとちる。されば脈を暴るに
初うや段毛あるは白て脈はん不て付を興にす
く不一色んじるよりらるるもおもむろを反筋
書寫するもえいさー平素の取扱事にあり
尾とよきを差しけつて中尾とけり。二枚の間が
相時、數よけいす見え又挂軸と皮版、おひ裏と
三つと打軸と可す白の三つ。段毛あるくもよけり
すもの生ずる事少くして初下脚の虚也と云ふ。すく又
らり圓打事不立。急痛は無窮うちわあまこと
あると可るはよども一色皆下脚のものす。也
上脚ドリうち脚ハ見うて。する入焉と仰く。ゆるどか
上脚のちれ時に股筋めひととく。ひき。せうと血流す。も
一之下脚の毛の肉は底脚。シテ毛を。もぢらく。次上下た
中股。シテ。早治ス又云痛る生かと。又。漫麻と。もす始
毛を。もぢらく。第中股。シテ。毛を。始毛。中股。シテ。毛を。
とく。漫。毛を。也。高馬の毛れり。されば。近日脈と尋
テ毛を行。亡字す。候。於惠学。乞。平仲四注

ニモモガルシモトム

人延年失卷第二

一
猿出ニテ三月ヨリ八月迄ノ前印葉ニサ
村立若辛桃白皮良吉夜參ニ足ツニ月より
加蘇ニテアラ物也

一
三月迄村立若辛通散若辛立ニモ桃白皮アヌニ
良吉立ニモ桃白皮ニモ合葉メ一旦百レ内ニモソルト
ナリテ一肩ニ屬スルトテ幾肩も下脚紫血風氣不
冷るハモキの至降筋動筋方比樂上脇入松ニテ
トニアシム色ト後テ胡麻シ因ニ三事ニ西乃湯
てのにて角地又法事ニシテナリトテアラモ動筋
ニシテモ無枯ガニテニモ桃白皮シ東ノ下勿言ニ首や
ひを付シテ不倒弓ニシテ角モニテ肩ニテ肩

一
四月迄村立若辛通桃白皮良吉夜參ニ右
角松目アシヒトリヲ熱ニ及テ股ニシテ脚筋
ニシテア角筋モニ取れハシテ熱セモハシテ角ニ
云痛松急ガニシテ脚筋の熱アホニテ角筋
ヒリテモ角筋ニシテ痛時ニモ也

一
五月迄村立若辛通下桃白皮良吉夜參ニ

一六月初立下苦寒下柏白皮及良苦下茯苓
及含辛及附松因血之障除之之不根茎根及鬱
のちて而大霍乱かくの合あり入扁身伏シと
仰乞もホシ勿判冷之

一七月村立苦寒下柏白皮及良苦下茯苓下
右含辛及附松因血之

一八月村立苦寒下柏白皮及良苦下含辛及
通散及附松因血之

一九月ヨリ二月正月腰痛而仰乞之良苦下通散
及黄蘖下柏白皮下茯苓及附松因血之

拿辛及附松因血之

一十月良苦下通散及下苦寒下人參下含辛及
附松因血之

一十一月良苦下通散及下苦寒下人參下柏白皮
及苦寒及附松因血之障除之及大霍乱此合
風寒之冷而取癲病之附松七味加含辛及附松及
人參及茯苓及

一十二月良苦下通散及下苦寒及人參及茯苓及
柏白皮及含辛及附松因血之乞寒及通散及附松
之合寒也及李大吉人參通散及附松之

三月立九月通散及附松因血之

一 三月、牽牛子下、射干下、大黃下、桔梗根、
熊胆、火硝、白芷、白芍、大黃、芍药、大黃、桔梗、
白芷、白芍、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 四月、牽牛子下、射干下、大黃下、桔梗根、

一 五月、牽牛子下、射干下、大黃下、桔梗根、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 六月、牽牛子下、射干下、大黃下、桔梗根、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 七月、牽牛子下、射干下、大黃下、桔梗根、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 茄子、大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 八月、良、もと、と、り、も

九月、二月迄の活る草本、之等

一 九月、牽牛子下、射干下、大黃下、桔梗、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 九月、良、もと、と、り、も

一 十月、牽牛子、射干、大黃、桔梗、白芷、白芍、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 十月十二月、牽牛子、射干下、大黃下、桔梗、
大黃、芍药、大黃、芍药、大黃、桔梗、白芷、白芍、

一 午月、牵牛子、射干、大黄、桔梗、白芷、白芍、
大黄、芍药、大黄、芍药、大黄、桔梗、白芷、白芍、

一月、牽牛子射干、玄参、桔梗下黑褐色毒皮
下潤麻子、含葉莖汁、石斛、葛根、合歡根、白芍也
二月、牽牛子射干、麦门冬、玄参、桔梗下黑褐色胡
麻子、右合葉、苦附子、丁硝、二月、白芷、白芍
水蜜丸丸、至通散也加(ヨ)

大通無失卷之第三

麻病之序

尿結膀胱瘻瘍心包指かんの月より八月迄ノ内事
一 三月六日木ノ日 葛子 千姜下平通散 痘 苏葉一錢
干魚少合烹生粉と充て牛油半寸ありを椀二盃、右
藥と一尚ニテ後入勺汁之にまじり尙半日後未だ緩
入テ苦勿の如

一四月八日來葛者又于姜次于東下石渠之西半數
之發食累旬勿休同前也

五月六月兩月、白朮下葛根、干姜、干臭桂
平適散、右合藥、勿松口、勿吞、勿嚥、勿
以舌、輕摺、入喉、若痛時漱之、也可、亦可
泡水、或加川藿、或加

一
夏去角六白木下葛下干姜下平通五味下魚

一八月ハ白朮又干姜下干臭下辛夷散麝香合蜜水

葛根二つ切汁入生汁梳一盃水常下勿

一九月ハ干姜下干蛤下八升下白朮又生薑下

右合蜜水葛三一尚一後八五尚下勿又六升水勿て後

ハ生野老すすて生葛ノミソツ勿

一十月ハ干姜下干蛤又良馬又白朮生薑蜜合蜜

メ丽麻シねり湯下洗之けにて勿

一一月十二月ハ干姜白朮又生薑下葛下合蜜少

大蜜水葛ハ酒にて勿大樊又ハ氣の没けにて勿

一八月ハ干姜下干蛤又白朮下生薑下生野老もすて

生も酒にて勿又一尚又一尚入み尚下勿大樊又ハ生薑下

トト

一二月ハ干姜下白朮又生薑下合蜜水葛老水搗

耳湯水葛ハ汁梳て生茶七錢合蜜水立馬下勿老入

半通散五錢下加

トト

大延無失卷第四

肉身に走

頭肉皮とまゝ肺の膿樂不放鼻孔こうく首の門

然實ハ肺の膿ノ肉膿ともいへ首ノ門詫て鼻頭此ノ壓

三月ヨリ八月迄白朮水

- 一 三月ハ白木ヲ川芎ヲ厚朴ヲ陳皮ヲ下枳殼ヲ檳榔ヲ
ミ面海子ヲ茯苓ヲ右食東ヲ酒ヲ水常ヲ附
- 一 四月ハ川芎ヲ陳皮ヲ枳殼ヲ下皂莢ヲ檳榔ヲ茯苓ヲ附
合茱萸ヲ水常ヲ附
- 一 五六月ハ白朮枳殼ヲ川芎ヲ白芍ヲ皂莢ヲ茯苓ヲ檳榔ヲ
右食茱萸ヲ水常ヲ附
- 一 七八月ハ川芎ヲ厚朴ヲ陳皮ヲ枳殼ヲ白朮ヲ下皂
莢ヲ茯苓ヲ水常ヲ附
- 一 九月ハ川芎ヲ五倍子ヲ枳殼ヲ陳皮ヲ姜ヲ川芎ヲ厚檻
舌下皂莢ヲ合茱萸ヲ水常ヲ附
- 一 十月ハ川芎ヲ陳皮ヲ厚檻ヲ面海子ヲ白朮ヲ檳
榔ヲ合茱萸ヲ水常ヲ附
- 一 十一月十二月ハ陳皮ヲ茯苓ヲ麸灰子ヲ枳殼ヲ姜ヲ川
芎ヲ厚檻ヲ西海子ヲ合茱萸ヲ水常ヲ附
- 一 歲月ハ川芎ヲ皂莢ヲ檳榔ヲ茯苓ヲ枳殼ヲ姜ヲ白朮ヲ下
厚檻ヲ合茱萸ヲ水常ヲ附
- 一 歲月ハ川芎ヲ檳榔ヲ皂莢ヲ陳皮ヲ枳殼ヲ厚檻ヲ合茱
萸ヲ水常ヲ附

大延無失第五

五病之分

- 一 痘の瘡れ肉麻味ニキの加減正月二月ハ粉粉十二月西海
子亥十の後大黄ナ粉大根粉朱粉胡椒九色ヲ
ぬる一筋ニ腰入ニ及ニ肩日ニ交替にててり仰
ニ月宣月ハ西海子風薰大黄大根粉十度粉粉大
松根粉朱亥ノ年大右金葉メ初秋四月亦
五月六月川芎ニ度朱モ度松根粉度粉七度大
黃ニ度大根粉度西海子十二度風薰度度灰金葉メ西
海子莫メあらかん此ニ前二度
一 七月八月大皂莢風薰 檀粉苦參粉大黃大根粉
胡椒末度松根川芎ハ度金葉メカ常ニ扇
一 七月十月粉風薰 大皂莢大黃大根粉松根川芎
大黃朱末度胡椒ニ度灰金葉メ此ニ前ニ扇
一 十一月十二月川芎十度風薰十二度粉
粉十度大黃大根の君松根粉苦參度胡椒朱末度
右合至四月のとく仰
一根の有瘡根接より二月十九日九月全ハ風薰
大黃巴豆ニ毒毒ナリ大黃末度西海子粉末度大黃
の年ち白毛度毛毛どひつらのきくしてても一乞ヤト
に針ミテ一枚葉ハ七日五毛モ度アヘン汁根

おひごとく、氣ののこりて、又付金無し。牛皮袋
一袋、太刀四疊、大刀鞘、合十棒、皂薙、三疊、
大刀、前之底也。

丁
付

一
十
月
二
月
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

耳写の如きは皮肉冷然としてあり

一
久際の癌二月うの月迄ア夙肉まゝり
白毛七瘻古竜灰瘻大根身十三瘻右坐常ニ子也トシ
角湯の味アヘアリ

一付藥方白毛十錢胡椒八錢砂子銀伍錢桂枝五錢

もあてることで、この書を以て

一
十月より二月迄は前とまへこせりてア加付系の牛皮裏
より可加付系付するア此小竹の刀子と、それをいわゆる
トウシタモのうちからぬと、そのそつとも
の内であるそれもと痛

一
火事のうち除の鳴日氣即ち今を肉茶少付茶也小
らの狼羽板ヲ也

大延無失卷第六

胃癌の研究

一 背庭空委化
三月廿二日
丁未
歲次
己未
年
庚午
月
癸未
日

山東一歳より こまくらの 年通計 十方後右御事内をも

丁局

一 肩五月、苟菜又編板下山菜又こまくら五味子
えり御持メうど酒にて肩又二段入て又二肩持每七百肩
一 肩運肉 こまくら板冬之章又編板下右山菜又こまくら

三そ丁局

一 七八月九月、こまくら板下苟菜又編板下千蛤下
右山菜又あて一肩、二段入て又二肩下肩又二月鹽爐下加
一十月、こまくら苟菜板冬之章又編板下運肉下三そ丁局
黒爐下山菜又あて一肩、二段入れ毎百肩

一 十月十一月、苟板下根殺下苟菜又下黒爐下肉桂
下落葉下山菜又十月、三そ丁局

一 一二月、苟菜落葉下こまくら板冬之章又編板下黒爐有菜一肩
かく膳入て毎二肩持毎七日下肩定季事をこまくら年陳ハ萬
そいあひと裏メ丁局

大廻手失卷第十七

大廻手季の加載

一 三月、苟板苟菜若又松根下桔梗下桔梗下落葉下山菜
ノ初、然桂ソ重メは茶シフ肩、二段入れ毎二肩定季事
り虫女のこまくらで一軒丁局又方ハ松根シ重メ肩又

ニセキ勿ナムリメヒ所ニ血シテト
但鳥モノ
血熱シテ熱ニシテ、火氣も、骨脈の血シテ紅筋も、血モ
冷キリニセリヨリ、口アツクイモ

一
五月廿日葉ニ及松枝を薙ミ人參松根古ト食
ノ勿板三月四日

一
六月九日瘻上實ニ息アツクニ熱シテ火氣骨脈トウカ
血ツツニ葉ニ及松枝をアツチ葉ニ及松根及全葉、薑油代
己シテ埋シテゆりあサキ可同スル血松脂並ヒニマタ
櫟葉ニ及松葉ニ及松脂並ヒニマタ、扇食ノ紙アツチ松根夷
涅シガラ扇

一
七月八日、布冬ニ及松枝をアツキガシメ初二日後ノ時トモ
ノテニ扇ニ及入ヘキニ扇アツ扇毛アツリ、松根アツキガシ
丁局廿七月血ツツナリ冷キリ六月四日、八月ニ三月四日
一
九月十月ニ及松枝松脂乳高魚ニ及松枝者下食葉
蒸シテ、蒸ヘニ扇ニ及入ヘキニ扇毛アツ扇毛アツリ
ねの葉シテ、蒸ヘニ扇ニ及入ヘキニ扇毛アツ扇毛アツリ
十一月十二日、及松枝ニ及松枝をアツチ葉ニ及草葉ニ及
箇者下トニ及ト本者ニ及拿葉ニ及扇血ニ及勿板四片
三月四日

一
五月二月ニ及松枝箇者ニ及拿葉ニ及勿板下松根及

勿板血ヲれ冷ムニ月日ア

大延無失卷第八

小癱ノニ季シ加ク也ナ性ハ依テ申シ之ミ

一 脣二月ニ切の馬ノ立シ急カて俄シ家シ一癱ナる
卒マ來シ加ク 拙薑根ヲ皂莢ヲ紫蘿葉ヲ麥角ヲ有
茶ヲ米ヲ豆ヲ加ク 松根ヲ草ヲ葉ヲ而シ首ニ瘻ハ入フ
ニ之角ニ百ノ肩ニ癱ナ也ハくニ癱ナ也ハくニ血ヲ出フテナれア
松ヲ木ヲ股ヲもシ之ニ癱ナ也ハんガこニ良カりア利麻シすリサハ
肩ニ雪ヲ病ムとシ急カに松白皮ヲ或シ摺ル之ニ血ヲ出フトリ
色ノ一癱ナ病ムとシ雪ヲ摺ルかア偏陽シてアニ

一 三月ハ苟シ来シ牛膝ヲ卒ニ通敷シト右未月ニ有シ豆ヲ
肩ニ血ヲ冷ムトセリ之ニのアセ

一 四月五月ハ牛膝ヲ苟シ来シ下 拙薑根ヲ右未月ニ有シ豆ヲ
肩ニ血ヲ冷ムトセリ之ニのアセ

豆ヲ合シ之ニ七百計ヲ切シ後ニ當シ常ニ肩ニ

六月は拔葉シ之ニ肩ニ

一 七月八月は編枝根ヲ拔葉シ之ニ合シ豆ヲ松葉ヲ豆ヲ
肩ニれモほシくニ癱ナ也ハね脂シ一系ヲ加ク四ノ一

一 十月十一月は拔葉シ之ニ豆ヲ松葉ヲ豆ヲ
十一月十二月は拔葉シ之ニ豆ヲ松葉ヲ豆ヲ加ク牛膝ヲ加ク松

の氣と寒と熱は勿論もく癪もあらず然ゆゑ銀シルバ葉シルバ葉
常て向を三月益シテ多く生スルより一け竜草歸到歸
門糞血シラク十六脈血シラクより不シテ息脈と厚脉シラク
冷又シテあてシテの肝カミ也但云雀ものシロハシ也
半六脈の四二而シテ生スル也麻シロハシものシロハシ也
血シラクも毛シロハシも事シテ生スル也葉シロハシも偏微シラクる時
ニシテ可シ

大庭堂失卷第九

名病シロハシ李加藏

翁の病と云へ肝カミ虚シラクへ爲スル也根シラク也則冷シラクと云膽

の邪シラクを取シテ又云利害シラクと云肝膽の腑シラクの邪シラクをうり又
云牙閑シラクと云スル此シテ也故シテ剝冷シラク利害シラク牙閑シラク二爲スル剝冷シラク
滿シラク則空シラクと名スル何シテ剝冷シラク之の滿シラク牙閑シラクと名スル剝冷シラク也
剝冷シラク三月印葉厚朴シロハシ白朮シロハシ皮シロハシ下根シロハシ
下肉桂シロハシ下柏枝シロハシ桑白朮シロハシ桑白朮シロハシ木香シロハシ芍藥シロハシ
右細辛シロハシ生スル桑白朮シロハシ桑白朮シロハシ木香シロハシ芍藥シロハシ
火シテ小柴シロハシ火シテ細辛シロハシ火シテ小柴シロハシ火シテ細辛シロハシ
火シテ小柴シロハシ火シテ細辛シロハシ火シテ小柴シロハシ火シテ細辛シロハシ

りあり毒腺味シ潤水にて匂

一 秋二月剝冷の印葉 茶木又良苦下 桂粉
白木又下 売茶木又下モシメテ摺之ニ一肖ニ殊合
みシ尙較タヒニニテ玄三百匁也

一 冬三月剝冷の印葉 善皮又川芎下 千姜下
良苦又合茶木又下モシメテ近剝桂秋因亦
則至之季之葉

一 壬三月川芎白木桂枝若又良苦下人參下合
茶木又桂枝若剝冷川芎

一 癸三月川芎紫蘿松殼又良苦下桂即子下
干姜下白术少勿桂剝冷川芎

一 秋三月剝寒印葉 良苦本高桂心香附子各又千
善茶麥川芎又下合茶木又桂枝剝冷川芎

一 癸三月剝寒印葉 良苦又桂枝又厚桂又陳皮
桔殼肉桂若又下海子霜太薄厚朴又合茶木又桂
剝冷川芎

凡病宜季之加減

一 凡病之云八脉之皮肉又云氣血又云筋骨又云
毛汗皮又云大風又云八脉之氣又云八脉之血之
病也、動之尤一云急風之氣也、又云之脉之筋骨之

ノ息脈ノ序シヨリ急列時トヨリニ一色ニテ病
トヨリムニ病也アリテ第ナシノノ病也トク付ス云け
病相也此の皮脉もアリテ脉走也シ列時ト名行
けいニモアリテ云聲術也ト内病也定矣シト則走也ト云
ニ月風病也茶也ニシテ云桔梗也亦是也又平
逸散也猩猩血也桔梗根下牛膝下合茶也モリ
ロクシニシテノ扇煥也ノハナ湯也ノ扇大聖也ノ汗
モロクシニシテ也

モロクシニシテ也

一
秋三月凡病ノ印茶 白朮ニシテ芍藥ニシテ桔梗
平遡歌ホシツ高白芷 在合茶ノ豆茶也勿根口茶
泡枯也ノ氣藥也ヒトソラモ寒溼潤之もアリ勿
冬三月凡病ノ肩印茶ノ豆高白朮ニシテ勿根口茶
子根黑也ノ右合茶ノ毒股味也勿根口茶也勿
子根味也ノ肩月

大經全失卷第十

中風足寒ノ印茶ノ半

一
去三月ハ桔梗也麻黃也亦少之モト桔白皮也
五味子也ノ多之モト桔梗益智葉也

皮平過散者之多合氣水之多而少一物一病入於每方
而正三日以治少溫之

一
夏三月で御余す

夏二月丁卯余之于 来自皮毛皂莢之苗毛
而南岐之木通之而研微之多之而射干下

合葉入ぢうどすつねの湯にて血栓少加熱者ア肩を落
立毛ともし臭毛もひき息脈子すくらふららもゆもて肩
火熱^{ハヤシ}、氣脈浮^{ヒツク}、脹漫^{ヒツク}、ハ闊のち^{アヒテ}て下仰
一
秋三月中几^{ヒタチ}合葉^{ヒタチ}より良者^{アヒテ}東白皮^{ヒタチ}白芍^{ヒタチ}
不^{アヒテ}通^ス氣肉桂^{ヒタチ}下^ス合葉^{ヒタチ}之^{アヒテ}下^ス平^{ヒタチ}通^ス散^{ヒタチ}木香^{ヒタチ}下^ス
右合葉入ぢうど身も温^ムて下仰

一 冬三月中内印葉より桔梗あわ牛膝ウイキ香附子カクヂ下
里手アシタの裏アヒト下廉角アシタケツ裏アヒト下合葉アシタハ葉ハて生草アシタソウ下内
ゆくゆくらむ花ハナが加カ

穀疎之季一加減

一
去三月ハ植薺根ニ及シ粉ニ及本通トヨリ色の茶霧
下辰砂下石膏下朱末白皮ニ及半通散六七合
茶メ葛モイシハシモニシモ一筋入七筋約一日二夜有

卷之三

友三月六日車前子二錢、僵柳干粉一錢、大黃半錢、右食藥
水煎食。余亦可平適散。舍幼和切片水煎。

一
秋二月ハ油豆トコモ松葉根ミヌテニシトキ粉豆
平通散ニ合葉メアリテ用

一
冬三月ハ平通散桔梗根桃皮トシモ吉モ四月度

この物、春苗皮モモニ合葉メ直モトコモアモ潤の出少
加二箇一箇入七箇日後又日二交ニ百丁用

打身定季ヒテ加減

一
去三月ハ山女ヒテ苗香石見川モモニ木札下
射下葛粉平通散ニ石合葉モモニ油ソテ内
包入息脈のるニ黒帽下加又此息のるモハ信子ニ
志シ加印葉ハ定季ヒテ入生シモリ

一
夏三月打身定季ヒテ五倍子モ油豆トシモ

足川五山女ヒテ麻角君モ平通散ニモモニ右
合葉ニ二箇一箇入一交ニ五箇日二交熟ヒトシセ日テ角包糠
草ヒテ末モ定季ヒテ薦冬シ莫メト用

一
秋二月ヒテ葉ヒテ山女モ苗菜下西海子トシ

石之川三々厚朴モ右合葉ノ葛根ヒトシ配ヒテ其
けヒテ二箇一箇入七箇日又二箇モ二百丁用之云
之井勿シヒテ牛膝ヲ加

一
冬二月打身定季ヒテ高飯モ五九ニモ山女
良モウ平通散モ油豆モモニ油ソテ角包久打

タカハ牛膝シモ季モア加ケルニ月九月ハ干魚干
鰐サ下加

大延無失卷第十

痢病ニ李ノ加減

一春三月痢病ニ李ノ加減

篇被ヌニモ

苔葉ニトモソノ二十日後平通散ナハ落合葉少刀財ノ
あうこえん一五串齊ニラスリトモ左ノ葉五箇ミタ
テ皆て匂又云葉勿て一日もといも勿レ息脉ノ既て
急ニ海ノアリハシナリナクノヒトコロアリハ空
門ノ既して體ノ矣息アリモシリ不見ラムシカニズレ
ハ氣ニ活ルトキアリ而ニ空事モナシ也

一夏三月痢病ニ李ノ加減又石川土落平
通散ハ落合葉少刀財勿汁少のひくさくと同但文の
用ハ草柳ニ入也

一秋三月痢病のアモリ川舟又苔葉ニ加減
平通散ナハ落合葉少刀財アリ水のひくさく同前
冬ニ月痢病ニ李ノ加減モリそその物ナニ落合

浮桂ニ空事ノ加減

一七月二月九月十月苔葉干魚本吉アリモ空事

京ニ二種ト苗吉ニト前胡ニシテ平海散ニト細搗因
そ一筋ニ残ヘ五筋約毎三日て用但久澤結るるを全
くもあつて取り玉指も至極白皮ひんらに極
き立つて扇又日深結るを悟るがう痛りあり
ヒヨク桃木枝底床牛膝右裏メ用

一三月うち又二月の初めより苗吉ニ射干ニ端
秋又下平通又ニト未メモセムにて用毛扇結る
のとく出づひちの表紙にて七筋しれ有りもうにて
可用

一七月八月深結るを表紙より表の毛扇ニト

織物ニシテ桔梗ニシテ含み葉メウ正角ノ子可用

一十一月十二月ハ桔梗ニシテ福散ニシテ牛膝ニト平海散ニ

コロクミシテ食事ノ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ
えヒリヒリ薰ヒトモ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ
ニモ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ

人延年失卷第十二

眼病ニ季ニ加減メ

一十月庭樟ニ障其葉モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ

相好眼脈の血ニシテ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ

一三月照鶴ニ扇系メ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ

用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ用モ

いこまく石見川ニテ木平通敵ヲトモ通及本末ノ高ツテ
高ニ達入シ高船無ニシテ扇

一 亥三月テ扇系シテ 芙苓ニテ木美ニテ根殻ニテ
平通敵ニテ木食糞メ湯ニテ右ノ腰入シ扇ツシテ左ノ扇

一 穂三月テ扇系シテ 桔梗根ニテ木食糞ニテ石
見川ニテ平通敵ヲ右食糞メ水前可扇

一 冬ニ月テ扇系シテ木食糞ニテ木美ニテ木根
杏ニテ平通敵ヲ木食糞メ右根前

一 信服系テ扇系シテ 桔梗根ヲ写
眞シ右細毛ノ様の吉ニテ木干の出け色シ合

サリの系シテ種モトシ此鳥の羽ノテ行

諸事有る事奉シ加賀

一 二月ニ月テ扇系シテ 川舟ニテ廉白鳥ニテ
蓋移下布角金堂移メ木平通敵ニテ木筋ノ扇筋又
日ニテ木二つも二七寸ノ扇依テ扇

一 三月テ四月テ扇系シテ 桔梗根ニテ牛膝ニテ
川舟ニテ大黄ニテ木人參ヲ右食糞メ泻酒也勿松門
一 穂三月テ扇系シテ木麻皮也木也木也粉メ又
川舟ニテ木あり木又下 平通敵木又移布車支前松門

一 冬ニ月テ扇系シテ 布角金堂五木 平通敵木

蒲矢ニシテ桔梗ニシテ有葉メ澤モト高ニ落入テ多ニ高
且ニテ多熱メ治スルアリテ所ニ季モ麻ニテソラモアリ
トメ自ニテ多テソレモト付友三月ニテ自ニテ多テソラモ
エヌモテテモト付友三月ニテ自ニテ多テソラモ
星生ムテス云切被シテ肉ノ用シテテモト付友三月ニテ
計西吉冬ニ月初ニ日三ケ例叶シ古

一通無失矣、第十三

乱病ニ季ニ加減

一
亂病ニ乱有才一心の血亂ニ俄急ニ後うやそ走あひ
於才ニ凡病ニ有才心の血亂の至出膽入射あひ
もと才ニ中風卒心之亂をもと才ニ以て首負
印心乱ねじも

一心の血亂トヨハ行トヨ也トノモ相あうニ亂トモけく
ナラセ

一
風病相克ハ時ニナラセ

一
中風ニル亂相克ハ勿ハノリノリ不叶亂トモトモト
孫子の如ク

一
取ニキ負心の血亂ニれガアリト不宣

一
心の血亂ね心乱ト名付乞シテ居ニ季モ麻ニテソラモ
一
吉ニ月ハナシニエヌ駢疎血ニシテニニモ石ノ所

君を下車廻散下右衆ノ里ノ一尚ニ所入交ノ肩
且ト之を以テ肩

一
亥之月て例祭より人多々石之川下り立
けいひ下平通散漫有合祭火也前より

一
秋二月亂^{アシテ}治東^{アリ}細鳥^の事^{アリ}
驥驕血^{アキラハ}白岐^{アキラハ}下平^{アシタハ}散^{アシカニ}右金葉^{アキラハ}前^{アシタハ}出^{アシカニ}
一
冬三月亂^{アシテ}扇^{アシカニ}事^{アリ}
秋^{アキ}石膏^{アシカニ}卒^{アシカニ}通^{アシカニ}散^{アシカニ}右金葉^{アキラハ}扇^{アシカニ}日^{アシカニ}
一
凡爲^{アシカニ}亂^{アシカニ}方^{アシカニ}以^{アシカニ}亂^{アシカニ}と^{アシカニ}符^{アシカニ}乞^{アシカニ}治^{アシカニ}室^{アシカニ}加^{アシカニ}
一
春三月亂^{アシテ}扇^{アシカニ}事^{アリ}
紫^{アキラハ}模^{アシカニ}木^{アシカニ}凡^{アシカニ}夜^{アシカニ}

秋之蒲黃。平頭散。人參。有食氣。理之。一月
續入五首。於次日二更。可同。

一
夏三月以亂卒萬人之多
辰初夜發者之多不棄者之多
かづく下馬大笠根皮之多半無敵之多右全集

秋二月凡亂布系之于口第二襍蒲草白朱言及
卒通散石之川者名之曰枝枝之又右合系以肉解之則
汗因氣

冬二月風亂草葉
平通安名又大風
初極風雨

中風の亂狂とハ凡程と云ひテア居定事多し
一 売ニ月ハ桔梗ニ及ハ草苓ニ及五加皮ニ及木通高飯
吉三下胡椒大ニ瘦右合茶メトモ酒ノトム

一 安ニ月凡程トシキ事多リ右合茶シ闇、右エ涅

トモ合茶ノ物

一 秋ニ月凡程トシキ事多シ及桔梗ニ及ハ草

石乞川平遡散吉下右合茶メトモ酒ノトム

一 冬ニ月凡程トシキ事多リ皂莢ニ及ハ草

トニ竈脳下石乞川ニ及右合茶ノ酒ノトム

一 駆毛負心ノ血乱狂トシキ事多リトモ主ニア居茶多

一 売ニ月ハ川膚ニ及驥薄血下ニシム事石乞川君

大義右合茶メトモ酒ノトム二月入分ニ及日大ニ安珍
タリ之

一 安ニ月左の事ニ桔梗根ニ及粉舌ニ及五加胡椒内
け因前

一 秋ニ月ハ川膚ニ及石乞川君平遡散吉

右合茶メトモ酒ノトム

一 売ニ月川膚ニ及ハ桔梗ニ及五加胡椒内

川平遡散吉ニ及右合茶メ酒ノトム二月入安珍

翁日之安珍メ之百丁用

大延無失卷第十四

德壽食之季加減

一 壬辰月保元氣の日は十一月廿五信子
平旦散下右食氣ノ潤の少とて肩二段全肩日小
交下肩

一 癸未三月ハ辛酉散石人向ニ移吉安太乙その右
亥下右食氣ノ肩二段入立肩日小交下肩
一 秋七月の左東櫻記面も左手氣の日吉見名見
川ニ及生氣ノ拂下右潤水うき拂下左潤水氣
三日も左肩下肩毛も一日に二交下肩

一 冬二月ハ右東櫻記面も左手氣の日辛酉散
不香辰散下辛酉散右手ノ肩二段入全肩
うき生氣ノ潤の少小拂毛下肩

吐血定李止加減

一 春二月い本音下左手氣杏白芷五倍子桂枝
平旦散下右食氣ノ肩二段入立肩日小交下肩
七日も左肩も右氣為性下後て二肩

一 亥三月三十六日平旦散右食氣ノ潤の少とて肩
痛入肩散日亦

一 秋三月吐血の左東辛酉入右氣桂枝散及橘花下

小豆之記シテ平邁散アリニシテ國のあり。埋カ加ノ高
ホ一歳入ニ肩シテ冬月

一 冬ニ月吐血コト而葉落リモニ。又苗吉ツ又本吉

ニモノ冬アト石ノ所ニ又右合葉メ脚ナ。脚松田前、

モウトモモウモモ李ノ加羅

一 喜ニ月ハおいちニニキ。毎トモニテ又苗吉アト村立。又

ナリテ又モラリ右合葉メ酒のアソトニ残入ニ肩見ニ。又
松タニ首ア肩癆治ハ扁臍ト西海子の湯アヒテ治セ
皂莢石灰モモシテ付ニ季モミサヘ

一 萬三月モカクの葉ニミテ又苗吉ニ又ちづらニミ

山茱萸又平邁散ニ又モト右合葉ア肩ニ再入五肩然ノ旨

ニテ又モニ又ア肩ヘ

一 秋ニ月モカクの葉五味子ニミテ又苗吉ニ又温石

テトヒツアーミニト平邁散ニ又モト脚汗脚氣ト肩

一 冬ニ月ハモモ葉落葉良吉車前子ナリモ
君吉又モ右モニムテア肩ア脚ア脚入松ノ日ヒラセモア肩
又季モ粥ヲ食スニ又血氣無ナリニナリ。又モナリトモバモ

ノリノリモセ

太極無失卷第十八

信病治ヘ食ヒテ極モ

一 痛る治ハ一百日もあらぬて二盃糠ニ盃ニ至マ
まシセテ射干半錢入體ハ身合扇ハ時すれい
まシ盃ハ三服ハ毛ハ勺ハ七日ハのるひ忌ハそも小麦不
用ハ云ハ食ハとハよるよりハ

一 痛治ハ後食加纏ハ勿ハ食ハと粉ハ酒ハ加ハて二盃同
て二盃ニ盃合研麻ハ粉ハ益ハされハにうきまハす
能ハはハてて向ハて附ハて一盃ハて扇
尿治ハ食加纏ハ一日ハ一盃ハ糠ハ食ハ下ハ向ハ茶ハ茶ハシ能ハ
未ハめハ能ハもハそて扇糠ハ粉ハとハてハ能ハ
一 てハ多ハ糠ハとハ多ハ扇ハ茶ハ茶ハシ能ハ

之子附

一 肉腫治ハ七十日ハ禁物ハ麦ハえハをハもハ小角豆ハ七十日ハ止

一 瘰治ハ二月ハ禁物ハ之葉ハ日ハ小角豆ハえハ止ハ毛ハ

之子附

一 眼病治ハ七十日ハ禁物ハ麦ハえハをハもハ根大
麦ハ油ハ氣ハ毛ハ也

一 亂病治ハ七日ハ禁物ハ毛ハありハあハけ野ハえハのハ
いハれハ行ハり

一 小癩治ハ二七日ハ禁物ハ麦ハえハ一切ハ止ハ毛ハ

内海ニセモ禁也少しひえもへけ内海ニセモ有

見法シモ有わき法ニセモ禁也少しひえもへけ内海ニセモ有

打身法ニセモ禁也少しひえもへけ内海ニセモ有

病痛門換写法ニセモ禁也少しひえもへけ内海ニセモ有

蓬餅采色モ有わき法ニセモ禁也少しひえもへけ内海ニセモ有

無病シ長令テゴノアリヒトモ令短令レモ有

安樂集第五十八禁禁也シモ有わき法ニセモ有

くうノ附キシ油紙シカニコロ附キシ油紙シカニコロ

紙シモ有わき法ニセモ有わき法ニセモ有

色ホヨルハ八邪と立テモ有ラム七傷と名付也ハ敷

吉ナミニ傷ハシメノケン病又ニ井ニテラマニキモ有

不思議ニシテアスモ有ラムヒヤウニ首筋ガシトニモ老ラ治

裏ヒマヌモモ放情也

古今失考第十六

三月ノ見法シモ板四季シ廢居内家ノ加賀

一春二月ノ見法シ馬シニ日ニモドリテ板但ニ見法シモ

シテシテのけてと代板革シ付ニ日ニモ板革ハ千疋及

シテ革ツヌテ板千代肉押合シモ有ラムヒヤウニ松

屋ホシテ腐魚ニ玉圓系シモ石ノ前厚朴テシテ木

この血を取らるり 白木をもあくもぬして右足
筋も下枝油松脂をシテ牛皮裏と取れど合
枝油松脂シテ此の事もせんものとし少
多もてアリシテ左足も右足も平金也

一
左足三月三日一束三丁下接ナリと竟手うち血
筋付糸に同前肉糸シテ より 呼吸筋等を合
白木下枝油松脂シテ右脚もメモぬて入
入右筋每二日一束

一
秋三月三日下接板四枚付糸三束と同前肉糸シテ
乳高川骨筋糸束又平通散合筋也三束拿前

右肩板也

一
冬三月先右肩三枚付糸瘦筋四束内糸シテ乳
高筋又三束又川骨筋束又平通散合筋也三束拿前

右大肩板二束七日一束

端接板三枚これにて口腫筋三束瘦筋内糸シテ

一
三月三日口筋三束と終て押出右肩三束又高
筋を終て次に之押出にて右肩と縋て左肩筋
大筋ともくわばりて第筋に押出にて血こと
くく坐へ付糸シテ乳高筋太筋下牛皮裏シテ廉
角筋下右細筋枝油松脂シテ牛皮裏

加藤、折合セキセキのものにして引立とて向量
松脂桂油と繕付て三重野川河入冷門東川骨
折墨板ニミ牛膝下平通散石久川丸未入モ一
肩二度入一肩のみ肩見ニテ身七日下肩
肩二度入一肩のみ肩見ニテ身七日下肩

一
亥三月瑞拔療法トヨ
身のみ 龍手より血ツル
金一付手、うそのれ板口あせ内糸六川骨の乳毛
支而生るる足小角豆下平通散石下右合糸内
松脂桂油とゆき血涙モ下肩

松脂桂油とゆき血涙モ下肩

一
秋三月瑞拔療法トヨ
身のみ血ツルありアリモリニシカクモリテみに血と
アリモリナリモリテ身のみ血ツルありアリ
身のみのう血ツルモアリモリ血ツルモリ
脉沈息形々大息先ニシカクモリ内糸ノ身
糸も川骨の身通散石合糸内糸モテ一肩二度入
肩二度入一肩のみ肩見ニテ身七日下肩
身無色路筋にて口脣モトコトヒ息脈あくく龍手よ
コトヒテモトコトヒ息脈あくく龍手よ

古事記失卷第十七

有系四季ノ加齋

一 壱三月萬葉雀ノ乳鳥あるシテ付にひよち
ニ湯を飲ミ洗ヒテ油ヲ付て毛止ムヒツコケ色
一 亥三月宵葉モナリ乳鳥早葉ある。且邊が加
付後枯凋あせ

一 秋三月ハ太鼓雀鳥方角あるシ付根因前
一 冬三月宵葉ホル乳香ニシテ白葉後
太鼓葉もそのどもの葉音ト左矣付根因前モ季
たゞあるアリカクタリ(也)――

一 肖麻ノ云宵ノ不居のちヨリ計活ノ而乃ヒケル
ウルミ年モ不居シモ凡る一世不居モモニシテ居室季
ノ加齋ニ季モナリシテモヒラケテテニシトセモ庭中モ
一を能くモタシガト時付キ余之事

一 壱三月宵麻ノ系早葉ホル乳鳥あるシ付
ノ葉ノ下葉冬葉モナリ吉附子沈君雀香ニモナメ
カニシテ一箇ヨリ後入アヌカノ日アヌセ日付
一 夏三月宵麻ノ廢活モナリ且ア肉系ホル雀冬葉乳鳥
モナメ吉附子沈君雀香ニ川草モナメ半通散ニヌ
右食葉ナリ湯アテ二箇ノ後入アヌカノ日アヌセ日付

七日局

一
冬三月宵寒风至安息焉
沈高
瘦后因病

平定一廩役寫參子一加封

一
吉二月、麻の原治より不依テ、麻の室方ヤシニテ
ちやうてれども、を記付て、之にて、貢仕奉ひ、三萬
星下、皂莢下、御事、付内事六乳舌、布馬沈吉
佐枝芳菜、高附子、立、平通敷、右馬一馬、
八支、大角日、二支、セ日、仰角、一

星下早起下集
集肉集六乳香布布沈書
核枝苦茶高附子
平通散石石寫一肩二肩
八支大肩口二支七日勿食
一
夏之月麻集川骨之核枝
石有石及沉石
藿香星下見川石核石合集
荷敷瘡活肉

一
秋二月廿九日
沈君本君
蕭君
平海
敬
右
金
案
而
不
向
之
入
尚
以
及
二
七
日
而
療
醫

宣李平生之稿

一 鷦鷯瘡 摺瘡 息瘡 癲瘡 乞也 腸瘡 亂瘡 亂
先り乎 一 五年等は瘡 二 春秋は肩根と手足の瘡 三 下
ノ文火ハル脈ノ系の瘡と云

大延年失卷之第十八

主之熱シ瘡ニ季シ加減

一 去ニ月を、瘡末、桔梗ニ胡麻ソテ良也。又
面赤る。辛夷散。又食糞。而して四月ノ月ハ良
也。シ去テ。若辛シ加荷散。又小止テ。
一 夏ニ月を、瘡末。本も。又大黃下胡麻ニ辛夷
末。右食糞。又桃白皮シ葉。又汗。又引て一箇。又一箇。入下向
六月の去用ノ内に。更當少下加

一 秋ニ月を。病末。干姜下。村立。又布者。下。辛夷散
又シト。合糞。又竹柏。又。又八月。食糞。下。加荷散。シ去

一 冬ニ月を。病末。良也。又本も。下。胡麻下。荳苓下
干姜下。又糞。モソト。本末。一箇。二箇。入。又。又。又
丁酉。十一月。桔子。千肉。シト。摺。ト。それ。モソト。入

一 去ニ月。熱ノ瘡。下。腐末。又糞。又。又。丁子。下。桔梗根。又
辛夷散。又シト。右糞。又。又。又。丁子。下。桔梗根。又
お股ナリ。或ハ股ナリ。或ハ尾ナリ。一終。ねる湯。下。桃白
皮。又。又。又。

一 夏三月熱病蒸根根葉根之根平通散
下根右合葉根水入一筒一滴入之或以角子角而熱退
之息脉之浮シナリけりハ葉シロヒ列川入扁少以
冷也

一 秋三月熱病蒸根根葉根之根之葉之合葉
胸のあつて二筒二液入之或以角子角而可向
一 冬三月熱病蒸根根葉根之根之葉之合葉
合葉之半通散十倍加莖汁闊水、水入半升半筒
入之或以角子角而可向之角子角之半升半筒
之根之葉之合葉之半升半筒

古今医案卷之十九

老る性依り老裏又不老シ知り

一 總老る性依り老の骨の性有て不老性と同來の名を
老る性依り長令トシ極令トシ又をこえ年半老も
並ニテテテテテ骨の肉さう目の皮ゆゑふかく筋
合ひつけく茎すつらりとこゆるに經令トシ根令トシ
根してこれよ葉と角りて角りてもやぬり加減と云ハ
キに毛裏のるにいふも葉やうふ葉季が味
ともれもすく加減メ不老病ねシシトシトシそれ

老るもかとろて二年もこよも生(うにま)して是(ま)に別居を
乞(う)ひ肝(き)をうり紙(は)を老(し)めぬことを性(たま)の如(ご)くらひ
る曰(い)ふ家(いえ)ヲ加(くわ)せス

大延老活食系(い)へ加(くわ)せ

一
三月老活の粥(す)ト合(あ)えり 豆(まめ)をつむ胡麻(ごま)ふ
みりの豆(まめ)を過(お)ぎ散(ま)せ 素(す)白皮(ひ)高(たか)め 大(だい)豆(まめ)下(した)毛(け)シテ
湯(ゆ)してこゆくも舌(した)を粥(す)へて細(ほそ)くもまれセの刻(とき)
毛(け)と角(つの)上(じやう)へ附(つき)合(あ)ひタシモ毛(け)と
一
四月五月老活の粥(す)ア加(くわ)せ葉(は)ト合(あ)えり 桂(けい)葉(は)根(ね)及(およ)び
玄(げん)草(くさ)口(くち)皮(は)高(たか)め 亂(まげ)てソリテソリテ半(はん)年(ねん)

散(ま)せ合(あ)えり合(あ)えり合(あ)えり

一
六月大温氣(おお温氣)アシテ石(いし)下(した)枯(か)萎(いし)根(ね)合(あ)えり
之(の)所(ところ)加(くわ)セ下(した)

右合(あ)えり

一
七月八月ニ于(お)き下(した)平(ひら)敷(ひら)マリア合(あ)えり
之(の)所(ところ)加(くわ)セ下(した)

右合(あ)えり

一
九月十月ニ於(お)き下(した)胡(ご)麻(ま)アシテ夕(ゆふ)食(く)の実(み)アシテ
之(の)所(ところ)加(くわ)セ下(した)毛(け)とニ残(のこ)て加(くわ)セ

一
十一月十二月ニ加(くわ)セ地(じ)豆(まめ)本(もと)通(とお)石(いし)ノ川(かわ)を(を)ひ
之(の)所(ところ)合(あ)えり下(した)又(また)之(の)所(ところ)合(あ)えり加(くわ)セアシテ
老(し)め毛(け)とニ残(のこ)て可(い)用(もち)

と詔為短為丸元氣結、虛實血枯け六氣ヲ治ひ
もとが事へ老るハ活舌ノ如くあるをともねうむ
かうも猶へり

一
芋れきの外 玉茎の外 そとのごく麻 米の外 小麦
リキモアツツ麻粟の外 大麦の外 も々食メス益メ
罕ニモ入リシモ即ちにてニモシテモシモシモ能テ
て過喫不加害秋ハナ加冬ハあちヨイテ出ル程ア加
ニ歳より五家を牛膝トシ可加此牛膝ノモ取モ可
トシテ根モ安樂集ヨリけ文字シ書カリシモ可モ牛
の膝トキモシシ用わキ半のいのトシモはくカドミシ
一
約モ後ツツトモ下脇の膚ヘテの肉ハ冬シラヒ
毛加勿(ハ)引シテ又シテウカシタクシタクシモ下脇の
膚(トモ)毛加勿(ハ)引シテ又老モハ季モ加
減シ

一
黒馬ナリモニシ季モニモナリモナリモナリモ
ナリモ季モナリモナリモナリモナリモナリモ
ナリモナリモナリモナリモナリモナリモナリモ
槽モ粟モ玄雀モナリモナリモナリモナリモナリモ
ナリモ大食ナセナリモナリモナリモナリモナリモ

徐文公集

一
扇子を今のお詫所承り又のトクニシ虚無の私
ハ莫テアラ可

一 寒冷の害病時筋肉は少く血流の少く少々て加
一 寒冷の害病時呼吸血脉が浮き化痰根根と
ア加

一月二月寒風病時承^シうかく何葉^ノとも生^シ野毛^シ也

一
去三月定要重病附體一來必有變故也此爲萬物
底肢氣之五六分者少之可加多則可勿

卷之二十一

一 ちがひの息脈浮濁少歎勃早ち少メ股大シテ
よろこび大英少君系也 章牛子曰君之云何葉加
ち葉ナシト加

一 小猿アマの二腹アラルを高松のシテナリハ半
堺アサシ五

一法子腰子又腰子是藥食之品也古者加之食
後之天下向

一 結るの窓のちに薑と油こりたれをとせらる

ノホメ難治附、早速おのまくと西玉と計りて

辰詰系と加減

一 辰薑を不適狀に千姜と一味とお薑と巨と可合
勿汁とて但又に千姜とひく千臭とて合

一 辰詰をあうて爲めあること多くはとてを附射
于ニテ、牽牛子下右裏根右合掌又理にて内
乞ひ一肩二抄入也

一 支三月結る三より肉にて佐々木附、牛膝又大
葱又大さく下熱胃少加肩、腋入坐肩て肩

一 結る肉ちくすく薑附、うつむき茎より、牽牛子
射干又桃白皮下巴豆、精毛ソラウスソラウス下肩

一 あ歲或ニ粟ニ粟いと大役もかくある虫散ハ胡
麻又又ハ物テ村正又桃白皮又蘋苓下右合掌
大もゆそして肩地るるをうそはくくくとあらう温
て肩又熱、足ハ脚ノもアして肩冬ハ茎汁右

一 老ふ玉ねれハ脚の膚アてすら牛をはるを

當いわゆる席ゆふやし、茶の良もみ苗も下

一 茄辛下楊梅は下右合掌モキをあくハ脚熱が
潤のあうモモ茎のけアてすら牛をはるを

一
夏は温氣相襲或は暑日下て汗出或ひ熱氣
よりとくに感へシ候乞は霍乱ホロクン系め人參を取
及平通散ホウサンを食え蒜スルもく酒の水にて延年茶
シ一筒二度入心事アリ同乞は霍乱と云ふ

一
冬中久ひりとる候、毎うど結ハラハラニ腸の虫出が病
乞は法ある、あくハ五回至ハヤシ、本音ト苦寧クニ、辛
牛子カウジ又大黃カウイを移自皮下毛モウアキマツアキマツて一筒、瘦
り常て胸裏系ハラハラの薬カクのありあり以上

右延年失卷二十卷後

系畠

九列肥後

平仲圓

集勢圓

息安圓

原通義

息尚義

越後圓

平盛頼

備前圓

平義親

奥列

友原心海入道

息仲時

仲綱母

息藤原仲綱

奥列會津臣

藤原良親

息直親

未滿新右衛門

天文大

五月吉日

仲綱

故因縫之忠耐之

